

【科目名】解剖学Ⅱ（各論）		【担当教員】松村 博雄							
【授業区分】 専門基礎分野（基礎医学）	【授業コード】 2-11-0235-0-1	(メールアドレス)							
【開講時期】1 年次 後期	【選択必修】必修	(オフィスアワー)							
【単位数】1 単位	【コマ数】15 コマ	授業開講日							
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) ・理学療法学専攻及び作業療法学専攻 1 年次に在学している学生が対象。 (受講のルールに関わる情報・予備知識)									
【講義概要】 (目的) ヒトの脈管、内蔵、内分泌（ホルモン）などについて系統的に分析、また組織学的に細胞のレベルまで分析して説明する。さらに、発生学からのアプローチを通して理解を深める。 (方法) 主として配付資料および教科書、図譜を通しての講義。また、それだけではなく、標本、模型に加えて生体観察も活用して各器官、臓器の形態学的特徴を分析、考察して理解して説明できるようにする。									
【一般教育目標(GIO)】 医学、医療について学ぶために、ヒトのからだについてその構造や働きを理解する。									
【行動目標(SBO)】 ヒトのからだを構成している内蔵、脈管、ホルモンについて説明できる。									
【教科書・リザーブドブック】 河野邦雄・伊藤隆造他著『東洋療法学校協会編教科書 解剖学 第2版』医歯薬出版, 2006 年. ¥6,195 大川 淳・秋田恵一 監訳『ポケットチューター 体表からわかる人体解剖学』南江堂, 2014 年, ¥2,916									
【参考書】 森 於菟著『分担解剖学第1巻 改訂第11版』金原出版, 1985 年. ¥9,765 平沢 興著『分担解剖学第2巻 改訂第11版』金原出版, 1984 年. ¥11,130 小川 鼎三著『分担解剖学第3巻 改訂第11版』金原出版, 1982 年. ¥9,030 萬年 甫・原 一之『脳解剖学』南江堂, 1994 年. ¥9800									
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規定の GPA 制度に従う。 成績評価は、試験と小テストなどを総合して行う。									
【達成度評価】		試験	小テ スト	レポート	成 果 発表	実技	ポートフォ リオ	その他	合計
総合評価割合		45	45					10	100 点
評 価 指 標	取り込む力・知識								
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								

平成 26～28 年度入学者用

	学修に取り組む姿勢							
【授業日程と内容】								
回数	講義内容	授業の運営方法	学修課題(予習・復習)	時間(分)				
1	循環器 (1) 体循環の動脈と静脈	講義						
2	循環器 (2) 心臓 外形と内腔、冠状動脈、刺激伝導系	講義	前回講義の復習	30～40分				
3	循環器 (3) 胎児循環、鰓弓動脈の発生	講義	前回講義の復習	30～40分				
4	循環器 (4) 門脈循環の特徴と障害による側副路	講義	前回講義の復習	30～40分				
5	リンパ液の循環、脾臓	講義	前回講義の復習	30～40分				
6	内臓学・組織学 (内臓の組織学) 総論	講義	前回講義の復習	30～40分				
7	呼吸器：喉頭、気管、気管支、肺 縦隔	講義	前回講義の復習	30～40分				
8	消化器 (1) 消化管の概要、消化管の発生学、局所解剖学	講義	前回講義の復習	30～40分				
9	消化器 (2) 胃・十二指腸・肝臓・膵臓の特徴と局所解剖学	講義	前回講義の復習	30～40分				
10	消化器 (3) 小腸と大腸の特徴、局所解剖学、消化器系 (胃・小腸・結腸・肝臓・膵臓) の組織学	講義	前回講義の復習	30～40分				
11	泌尿器：腎臓の特徴と局所解剖学、骨盤内臓の特徴と局所解剖学	講義	前回講義の復習	30～40分				
12	生殖器：精巣と卵巣、中腎管と中腎傍管	講義	前回講義の復習	30～40分				
13	内分泌系：ホルモンの調節	講義	前回講義の復習	30～40分				
14	内臓の神経：交感神経と副交感神経	講義	前回講義の復習	30～40分				
15	内臓の脈管学：大動脈からの内蔵枝、上・下大静脈と奇静脈系	講義	前回講義の復習	30～40分				

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の3倍)に含むべき時間を示します。

【科目名】解剖学Ⅱ（各論）		【担当教員】西野幾子						
【授業区分】専門基礎(基礎医学)	【授業コード】 2-11-0235-0-1	(メールアドレス) (オフィスアワー)						
【開講時期】1年次 後期	【選択必修】必修	授業開講日、非常勤控室で対応						
【単位数】1単位	【コマ数】15コマ							
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件) 言語聴覚学科1年次に在学している学生が対象。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識) 修学状況確認のため、適宜小テストを行うことがあります。</p>								
<p>【講義概要】</p> <p>(目的) 人体を骨、筋、神経、脈管という系統に分析、また組織学的に細胞のレベルまで分析して説明する。最終的には再び人体を二重の筒（胴体と上・下肢）－（頭部と内臓）に、またマクロからマイクロまでを統合して考察、理解する。</p> <p>(方法) 教科書、図譜のみでなく、標本、模型に加えて生体観察も活用して各器官、臓器の形態学的特徴を分析、考察して理解して説明できるようにする。</p>								
<p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>医学や医療を学ぶ上での基礎を構築するため、人体の形態や構造を理解する。</p>								
<p>【行動目標(SBO)】</p> <p>泌尿器系、生殖器系、内分泌系、感覚器系について、その形態や構造を説明できる。 神経系について、その構成や伝導路について説明できる。</p>								
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>小林靖著『言語聴覚士のための解剖・生理学』 医歯薬出版、2014年、¥4,000＋税</p>								
<p>【参考書】</p> <p>坂井建雄著『プロメテウスコアアトラス 第2版』 医学書院、2014年、¥9,500＋税</p>								
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。</p>								
【達成度評価】	試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	100							100点

平成 26～28 年度入学者用

評価指標	取り込む力・知識	100							100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								
【授業日程と内容】									
回数	講義内容	授業の運営方法		学修課題(予習・復習)		時間(分)			
1	泌尿器系 腎臓、尿管、膀胱、尿道	講義		講義内容の復習		40			
2-3	生殖器系 男性・女性生殖器	講義		講義内容の復習		40			
4	内分泌系 構成とホルモン	講義		講義内容の復習		40			
5-7	感覚器系 皮膚、視覚器、聴覚器、嗅覚器、味覚器	講義		講義内容の復習		40			
8	神経系 総論：神経系の構成	講義		講義内容の復習		40			
9-11	神経系 中枢神経系：脳、脊髄、脳室系	講義		講義内容の復習		40			
12 -14	神経系 末梢神経系：脳神経、脊髄神経	講義		講義内容の復習		40			
15	神経系 伝導路	講義		講義内容の復習		40			

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※ここに示す学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の3倍)に含むべき時間を示します。